女性会計士20人　人生の中間決算書

女性会計士20人の人生の中間決算書

～おせっかいな先輩より。キャリア・家庭・これから～

日本公認会計士協会　近畿会

日本公認会計士協会　近畿会

女性会計士20人　人生の中間決算書

はじめに

公認会計士制度が発足してから、平成20年（２００８）で60年になりました。60年という長い年月の中で、戦後から、経済成長期、またバブル経済を経て、日本経済や企業の経営環境は大きく変わりました。女性の社会進出についても、雇用機会均等法の施行もあり、年々進んでいます。公認会計士をとりまく環境も著しく変化しました。

特に最近は、公認会計士試験制度の改定により、受験者数、合格率、合格者数が急増し、会員数は平成12年（２０００）の約1万6千人から平成21年（２００９）12月時点で約2万8千人と、倍近くも増えました。それに比例するように、平成20年では３６００人超にもなる公認会計士試験合格者のうち女性が６００人超と約2割近くを占め、女性の公認会計士業界への更なる進出と活躍に大いに期待がかけられる状況となりました。しかし、平成21年には公認会計士合格者の就職難が新聞に取り上げられるようになり、金融庁による公認会計士試験制度の見直し論にまで発展しています。

このような状況の中、私たち日本公認会計士協会 近畿会 女性会計士委員会出版プロジェクト（以下「女性会計士委員会」）では、働く女性の一人として自らの、また、後に続くみなさんのキャリアビジョンについて考えてきました。

女性が公認会計士という資格や経験を得て、多様な社会の中でどのような

活躍、どのような社会貢献ができるのかを示したい、という熱い思いを持ったメンバーが集まっています。

過去に女性会計士委員会では、公認会計士制度発足50周年を記念して、平成10年（１９９８）に会員向けに『翔け 日本の女性会計士のあゆみ』を発刊しました。私たちの仕事内容というのはなかなか公認会計士以外の方にご理解いただくのは難しいことが多いのですが、今回は60周年を記念し、公認会計士以外の方々にも公認会計士の業界に目を向けてもらうために、この出版物を発刊させていただくこととしました。どこからでも興味を持った部分から読めるよう、また、読みやすく面白い内容とするよう、極力工夫させていただいたつもりです。

取り上げさせていただいた方々の働き方は様々ですが、いずれも自分らしくキャリアを構築されてきた方ばかりです。これをお読みになられた方々が、迷えるキャリアの指針に役立てていただければ、また、一人でも多くの方が公認会計士を目指していただければ大変うれしく思います。

公認会計士ってどうすればなれる？　どんな仕事？

公認会計士の試験制度は以下の通りです（２０１０年５月現在。公認会計士・監査審査会及び日本公認会計士協会のホームページより抜粋）。

公認会計士試験は、公認会計士になろうとする方々に必要な学識及びその応用能力等を有するかどうかを判定することを目的として、短答式（マークシート方式）及び論文式による筆記の方法により行われます。

短答式試験は、財務会計論、管理会計論、監査論及び企業法について行い、論文式試験は、短答式試験に合格した者及び免除された者について、会計学、監査論、企業法、租税法及び選択科目（経営学、経済学、民法、統計学のうち受験者があらかじめ選択する１科目）について行われます。なお、受験資格の制限はありません。

また、論文式試験合格後、公認会計士として登録するためには、２年以上の業務補助等の実務経験や実務補習所での研修及び修了考査が必要です。

公認会計士の活躍のフィールドとしては、日本公認会計士協会のホームページでは、仕事の魅力として、「監査法人でグローバルに活躍」「コンサルティング」「企業内会計士」「株式公開支援」の事例が掲載されています（２０１０

年5月現在）が、大きく分けて、監査業務と非監査業務に二分されます。

監査業務とは、クライアントが公表する財務諸表（決算書）の内容が正しいかどうかと第三者の立場から公正にチェックする業務です。対象となるクライアントは、日本で約３７００社ある上場会社に代表される一般事業会社の他、学校法人や病院、国や地方公共団体など様々です。

話題となったＮＨＫのドラマ「監査法人」では金融機関（銀行）、製造業（メーカー）、ソフトウェア販売業などが取り上げられていたのを記憶されている方もいらっしゃるでしょう。具体的な作業としては、クライアントが作成した財務諸表の数値が間違っていないか、粉飾決算でないかを確認するために、監査リスク評価のための社長との面談、帳簿に記された会計記録のチェック、棚卸の立会、現金等の実査等を行います。

監査業務は個人の公認会計士でも行うことは可能ですが、監査リスクの高まりにより、監査業務に関与している公認会計士のほとんどは監査法人という組織に属しています。監査法人の規模は大小さまざまですが、世界的にはビッグ４（アルファベット順＝Deloitte Touche Tohmatsu,Ernst&Young,KPMG,PricewaterhouseCoopers）と呼ばれる法人間の寡占状態にあり、日本ではそれぞれ有限責任監査法人トーマツ、新日本有限責任監査法人、有限責任あずさ監査法人、あらた監査法人が提携しています。

監査クライアントが海外に子会社等を有している場合はその在外子会社についても監査が必要ですし、逆に海外の会社が日本に進出して子会社をつくっている場合は親会社に監査報告を求められることがあるなど、監査業務は企業活動とともにグローバル化する傾向があります。

非監査業務を行う公認会計士は、大きく分けて、組織に属している場合と独立開業している場合に区分されます。組織に属する場合の主な例としては、企業等の経理部門の一員として、財務諸表を作成したり、企業内の内部監査を行ったり、コンサルティング会社に入社し、会計の知識を活かしたコンサルティングをすることもあります。また、独立開業の場合は、税理士登録をして税理士として業務を行ったり、コンサルティング業、セミナー講師や執筆等をしたりすることが代表的ですが、個人の力量によって得られる報酬や活躍のフィールドは様々です。最近では勝間和代さんが有名で、お名前を見ない日はないくらいメディアでご活躍されています。

第1章からは、より具体的に公認会計士の業務について知っていただけるように、身近な先輩公認会計士から大先輩にいたるまで、様々な分野でご活躍のみなさまにお話を伺っています。

ぜひ続けてお読みいただければ幸いです。

女性会計士20人　人生の中間決算書

はじめに　3

公認会計士ってどうすればなれる？　どんな仕事？　5

第1章　あなたの近くで活躍する先輩公認会計士　13

皆見 幸（かがやき監査法人 パートナー）　14
不正を行える環境を提供しないこと、それと「こぎれいでいること」が大事。

平林 亮子（平林公認会計士事務所所長 合同会社アールパートナーズ代表）　21
独立して分かった大切なこと。「決断前の慎重さ」より「決断後の誠実さ」。

山口 綾子（ＹＫＫ株式会社 グループ財務・経理センター経理グループ）　28
一般企業では他部署との折衝が不可欠、コミュニケーション能力が鍛えられます。

大西 かほる（野崎印刷紙業株式会社管理部経理課）　34
私の作品、有価証券報告書を世に出した時の感慨は忘れられない。

第2章 女性会計士の卵は、こんなことを考えている …… 41
座談会 ～キャリア、結婚、今後のこと…走り始めた私たちの本音について
1～3年目の若手女性会計士8人が語ります …… 43
第3章 監査法人というフィールド …… 55
大手監査法人の人事担当者2人が働く環境について語る …… 56
「女性が働きやすい職場は一朝一夕には出来ないけど、確実にいい方向に変わってきています」
鹿島 かおる（新日本有限責任監査法人 シニアパートナー）
土岐 祥子（あらた監査法人 パートナー）
榎本 尚子（仰星監査法人 パートナー） …… 69
「自分を信じなさい」と言い聞かせながら結婚、転職、出産、合併…の日々を愉しんでいます。
第4章 公認会計士に国境なし …… 77
後藤 順子（有限責任監査法人トーマツ パートナー） …… 79
「チャンスの神様の前髪」をつかもうと1日で即決したニューヨーク駐在。
重富 由香（Ernst & Young China パートナー） …… 86
異国で、もがいて努力している間に「自分は何者だろうか？」が消えていきました。

Yasuko（康子）Metcalf（KPMGシカゴ事務所 パートナー）
背中を押してくれた「君じゃダメなの？」自分のやり方でトライすることが大事だと。 92

宮川 明子（勤業衆信聯合会計師事務所〈デロイト台湾〉ディレクター）
原点は専業主婦。当時の気持ちを超えるものがあるかどうか、自問自答し続けています。 97

倉本 朋子（PWC株式会社トランザクションサービス部シニアマネージャー）
買収対象企業に短期間でハマること…知的好奇心と体力キープが必須です。 104

第5章 独立、というもう一つの選択肢 111

中森 真紀子（中森公認会計士事務所代表）
艦船から小舟への不安と「お客様からの報酬で稼ぐ」嬉しさと。 112

須藤 実和（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授 経営コンサルタント）
ココ・シャネルの言葉が私の座右の銘になっています。 117

根岸 良子（中央綜合税理士法人・株式会社中央綜合ビジネスコンサルティング代表）
何の欲も野望もなく、めぐり合わせの縁のお蔭かと。 124

第6章 新しいフィールドで働く公認会計士 131

栗原 貴子（大阪府豊中市議会議員）
「身のほど知らず」を乗り越え落ちこぼれ会計士、市会議員に。 132

辻山 栄子（早稲田大学商学部教授）
「本当に役に立つものは、すぐには役に立たない」このメッセージを次世代に伝えていきたい。 140

小森 尚子（英国シェフィールド大学会計学講師）
日本女性は、欧米女性とは違うやり方で社会における会計士の地位を確立してきた。 147

第7章 長く続けてきた末に発見したこと 155

西川 京子（西川公認会計士事務所所長）
もう少し若く会計士になっていたらあと1カ国駐在したかったです。 156

友永 道子（前日本公認会計士協会副会長）
私と会計士業界と、15年間の協会活動を振り返る。 163

おわりに 171
女性会計士委員会委員長 宮口亜希／前委員長 栗原貴子

寄稿
企業内会計士の可能性と、今後のネットワーク化への試み 40

ものしりコラム

①大手監査法人の女性ネットワーク 57
②監査法人とは／監査法人の統合 75
③監査法人における昇進 78
④M&A支援と公認会計士 105
⑤会計基準の設定主体 141
⑥日本公認会計士協会とは 164

ちょっとお茶の時間

その1〜会計士と電卓。その切っても切れない関係 76
その2〜公認会計士にはドレスコードがあるか？ 130
その3〜監査にマストの「出張」秘話アレコレ 154
その4〜ドラマ「監査法人」を本職が観たら!? 170

第6章

新しいフィールドで働く公認会計士

この章では「監査」や「企業」とは異なる世界で
キャリアを構築されてきた先輩方のご報告をいただきます。
公認会計士のフィールドの広がりを感じ取ってください。

栗原 貴子

豊中市議会議員としてご活躍中の栗原さん。立候補を決意した頃のご主人との心あたたまるエピソードもお話しいただきました。

くりはら たかこ
大阪府豊中市議会（大阪府）議員
公認会計士　3女の母

Profile 85年 大学卒業後、東レ（株）システムエンジニアとして勤務／88年 結婚、出産、公認会計士2次試験合格／89年 朝日親和会計社（現有限責任あずさ監査法人）に非常勤で勤務／92年 公認会計士3次試験合格、3人目を出産／93年 税理士登録、栗原会計事務所を開業／95年 あずさ監査法人（現有限責任あずさ監査法人）に非常勤で復職／03年 大阪府議会議員選挙に出馬／07年 豊中市議会議員選挙に出馬、立候補者49人中14位で当選

「身のほど知らず」を乗り越え
落ちこぼれ会計士、市会議員に。

3次試験合格後は月に数日、非常勤の監査に行って主婦のパートとしては破格の日当をもらい、自宅では細々と税務の仕事…そんな生活を10年続けていましたが、もう一度きちんと働きたいという思いはつのる一方でした。そこで2年間くらいかかって考えました。一体私には何ができるのか、何がしたいのか。落ちこぼれとはいえ、公認会計士、税理士としてやってきた経験を活かしたい。子どもが3人いること、子育ての経験もハンディにはしたくない。

口下手で人見知りの割には、文章を書いたり、人前で話したりするのも案外嫌いじゃないという、出しゃばりな性格も自分で分かっていました。何より、人の役に立てる仕事、周りの人達を笑顔にできる仕事をしたい。そうやって頭に浮かんできた仕事の候補を消去法で消していって残ったのが…。

一世一代の「殺し文句」で
出馬に反対の夫を説得！

平成15年（2003）の統一地方選挙で大阪府議会議員選挙に豊中市選挙

区から出ようと決心し、家族に宣言したのは、告示日の1ヵ月前のことでした。でも、それからさかのぼること約1年前から夫には議員になりたい旨を訴え続けていたのです。10年以上も連れ添ってきた夫はとにかく目立つことが嫌いで、おまけにかなりの亭主関白です。嫁が選挙に立候補するだなんて絶対に許さないだろうという確信がありましたし、百年かかっても説得は無理だろうと思えたものです。

おそるおそる、本当にビクビクしながら、統一地方選挙で出馬したいと切り出してみました。最初は嘘か冗談かと思ったようです。でも本気なのだとしつこく繰り返してみたところ、ようやく夫も本気で反対してきました。

「何で議員になんかなりたいねん!?」

何とか夫をうまく丸め込もうと、それはそれは言葉を尽くして理解を得ようとしました。日頃から社会に感じている矛盾を訴え、熱い志を訴え…。けれど私が熱くなればなるほど、夫の気持ちはどんどん頑ななものになっていきます。

話が平行線のまま膠着状態を迎えた頃、いよいよ夫が切り札を出してきました。どうしても出馬するというなら離婚するというのです。ここに至ってもう一度冷静に、落ち着いて、頭を切り換えて考えてみました。離婚はしない方向へと戦略変更です。

「出馬するなら離婚」という夫の主張に対して、ひと言。

「出馬はするけど離婚はしない、だって私はあなたが好きなんだから（あ～恥ずかしい！）」

いきなりの方向転換、論点のすり替えといっても良いかもしれません。でも作戦は的中しました。一瞬、夫が言葉を失い、そしてその日から、夫の頑なだった態度がしだいに柔らかくなっていきました。

結局、夫の「理解と協力」は得られなかったのですが、「黙認とちょっぴりの応援と清き一票」はもらいました。私にとってはそれで十分でした。

「20票差」の落選を乗り越え 4年後、晴れて豊中市会議員に

さて、話を選挙の方に戻します。告示日までの1ヵ月、私にはもうひとつ選挙態勢を整えるという重要課題がありました。ポスターや選挙はがき、選挙公報の原稿を考え、業者さんと打ち合わせし、発注し、宛名書きを家族や友人たちにお願いして、ポスター貼り、選挙カー、看板、ウグイス嬢、マイク、たすき等々、必死で準備したものです。

興奮しているのか憔悴しているのかわからないような状態で告示日を迎えました。9日間の選挙期間は、あっという間でした。丸暗記していった原稿を話したのはせいぜい半日くらい、あとは日頃の思いが口をついて飛び出し

てくるようでした。9日間、まるで真っ暗闇の中を全速力で走っているみたいに怖くて、不安で、一方ではすごくワクワクして…。

結果は落選、20票差でした。惜敗率だと99・9％。これは悔しかった。本当の意味で政治家を目指そうと決意が固まったのはひょっとするとこの時かもしれません。この落選をしっかりと見つめ、いつかこの町の人たちの役に立てる人間になりたい、私たちの社会をもっと良いものにしたいと思いを新たにしたものです。あれだけ私の立候補を嫌がっていた当時小学生の末娘が「お母さん、頑張ったのに、可哀想や」といつまでも泣いていたことも私の背中を押しました。

それから4年後、結局立候補したのは今度は豊中市議会議員選挙でしたが、地域の人たちや友人たちの絶大な助けを得て、定数36人、立候補者49人中14位で当選させていただきました。

土地売却の決算書を調べると「これは…夕張方式では!?」

「『夕張市ときわめてよく似た処理で、財政状況が大きくゆがめられている』。9月26日の豊中市議会一般質問で、公認会計士の資格を持つ栗原貴子市議が豊中市の土地開発公社[※1]に対する融資を取り上げた」

※1：土地開発公社／地方公共団体が地域の秩序ある整備を図るために必要な公有地となるべき土地等の取得及び造成その他の管理等を行わせるために単独で、または他の地方公共団体と共同して設立できる公社のこと。

平成19年（２００７）10月16日の朝日新聞の記事に大きく取り上げられたのは、私が議員になって初めての本会議での質問でした。

議員になったらぜひ取り組んでみたいと思っていたことのひとつに、土地開発公社の問題がありました。日本中の自治体の土地開発公社は、バブルで高値で買ったものの処分も事業化の目途もたたない土地を多く保有し、今も巨額の含み損を抱えて財政健全化の足かせになっているような状況なのです。

しかし、当選した翌月に渡された前年度の土地開発公社の決算書では土地を売却して売却損が出ているはずなのに、決算書では黒字。

なぜ公社は黒字なのか？　どうやら豊中市から売却損を補てんするための補助金が出されているということはすぐに分かりましたが、豊中市との資金のやり取りは、とても複雑に入り組んでいます。豊中市の側の、大福帳方式の分厚い決算書を見ても、どうもよくわからない。そこで昔取った杵柄、監査法人で勘定科目ごとに作っていた年次の推移表を作成してみると…わかった！　これは…夕張方式じゃないか!?

夕張市の財政破たんが明らかになり、社会に大きな衝撃を与えたのは、平成18年、私が議員になる前年のことでした。夕張市では、年々膨らみ続ける赤字を隠すため、市から公社への資金提供を、会計上は単年度の貸付金として処理し、４月５月の出納整理期間（この期間内のお金の出入りは、前年度、当年度、いずれの期間のものとすることも可能と地方自治法で認められてい

る）内に、翌年度の新たな貸付金と相殺するという処理をしていたのです。

豊中市の場合には、赤字が膨らみ続けることはなかったのですが、実際には返済されることのない貸付金が、帳簿上、翌年度の貸付金と相殺するという方法で返済されており、会計的にみれば、やはりこれは極めて不自然なことです。これを実態に即して補助金、あるいは長期貸付金として処理すれば、豊中市の実質赤字が何十億にもなったであろうことを考えると、赤字隠しの手法だったと、今でも私は思っています。

議員になって初めての質問が、新聞で大きく取り上げられ、豊中市サイドからの反撃も、これまでの処理を認めてきた議会内での反発も非常に強いものでした。議員になって半年、新人ばかりで新しい会派を結成していた私と2人の議員は、出帆するやいなやいきなり、暴風雨に巻き込まれてしまったような感でした。

しかし結局、その同じ年度の1月、朝日新聞の記事も功を奏したのか、総務省からの通達の中で、出納整理期間を利用した不明瞭な会計処理を行わないよう方針が出されました。豊中市としてもその年度内には補正予算を組み、従来の会計処理を是正するに至り、私の指摘が全面的に受け入れられたのです。

行政の「支出監視役」として会計士議員の出番は増えそう

現代社会においては、所得税や住民税、消費税などの税金、あるいは年金や健康保険料などの社会保険料の支出が私たちの所得に占める割合は非常に大きいものになってきています。それだけ、政府や地方自治体はお金の使い道について、国民に大きな責任を負うということであり、それが正しく、分かりやすく報告されなければなりません。

もちろん今でも、監査委員制度や外部監査制度などもあります。しかし財政規模や私たちの暮らしに与える影響の大きさを考えると、到底、十分なものであるとはいえません。

地方自治体財政健全化法や新地方公会計制度など、自治体の財政、公会計制度が大きな変革を迎えようとしている今、公認会計士が自治体の議員になることによって、期待される役割は無尽蔵に大きいと、ひしひしと感じています。

ただ、議員になるということは、まずは選挙の洗礼を受けなければならないということで、ペーパーテストならば得意な公認会計士ですが、これはなかなかハードルが高いものです。私は会計士としては落ちこぼれだったからこそ、落選しても失うものはさほど大きくなかったし、政治の世界に活路を見つけ、会計士としての知識や経験をここで活かすことができたと思っています。とても幸運なことでした。ぜひ、もっともっとたくさんの公認会計士が、議員として、政治の世界で活躍してくれるようになることを願っています。

【栗原ノート】

□ 会計士を目指した動機

結婚した時に夫に「嫁が外で働くなんて男の沽券に関わるから許さない」と言われ、勤めていた会社を退職し、暇を持てあまして始めた公認会計士の受験勉強でした。

2次試験に合格した年は、予備校の成績もさっぱりで、しかも妊娠9ヵ月での受験。落ちたら会計士になるのはあきらめよう、言ってみれば記念受験のようなものでした。

辻山 栄子

早稲田大学で教鞭を執られ、数々の委員を歴任された辻山さん。
研究の醍醐味に取り憑かれたとのお話には、つい納得してしまいます。

つじやま えいこ
公認会計士、早稲田大学商学部教授

Profile 71年 大学卒業／71年～77年 監査法人朝日会計社（現有限責任あずさ監査法人）にて非常勤で勤務／74年 公認会計士3次試験合格／76年 東京大学大学院経済学研究科博士後期課程修了（財務会計専門）／その後、茨城大学人文学部助教授、武蔵大学経済学部教授、コロンビア大学、ケンブリッジ大学、米国財務会計基準審議会（FASB）客員研究員等を歴任／03年 早稲田大学商学学術院教授、博士（経済学・東京大学）

政府税制調査会専門家委員会委員、企業会計審議会臨時委員、国税審議会臨時委員

ものしりコラム ❺

会計基準の設定主体

辻山先生が歴任された委員のうち、下記会計基準の設定主体の概要は以下の通りです。公認会計士と会計基準は切っても切り離せない関係であり、辻山先生他 ASBJの委員が考案された基準に従って、日本の上場会社の経理処理が行われている、と言っても過言ではありません。

FASB（米国財務会計基準審議会）：

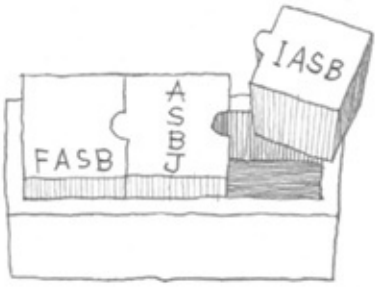
米国会計基準の取りまとめを行う民間機関。
73年に設立後多くの会計処理及び開示に関する基準書を発表しており、
今後、IASBとの調整が期待されています。

ASBJ（企業会計基準委員会）：

金融庁直轄の財団法人財務会計基準機構（FASF）の委員会。
日本の会計基準設定主体です。

IASB（国際会計基準審議会）：

国際財務報告基準（IFRS）の設定を行っている機関。
基準の開発や改訂の検討項目の設定やプロジェクト計画の策定とその実行について、
全面的な裁量権を有しています。



「本当に役に立つものは、すぐには役に立たない」このメッセージを次世代に伝えていきたい。

「物心ついたときから、普通の主婦になるという発想は一度もなかった」なんて、今となってはごく当たり前のことかもしれませんが、それが今から50年以上も前の子供時代のことですから、当時としては結構翔んでる女の子だったのかもしれません。

大学の商学部3年のときにいよいよ将来の職業のことを考えざるをえない段になって、なんとなく受けた試験が公認会計士試験でした。幸い最初の挑戦で2次試験に合格し、4年生からはバイトで働き始めました。まだ女性の公認会計士は日本で30人に満たない時代で、女性差別もあった時代ですから、就職先には苦労しましたが、幸い大学時代の親切な先輩の紹介で朝日会計社に非常勤で就職することができ、楽しい仕事のスタートを切ることができました。

転機が訪れたのは、大学4年の夏休みのことです。公認会計士試験が終わってホッとしていた頃だったと思います。たまたま出かけて行った大学でバッタリ会った友人が、大学院進学の準備をしているとのこと。人間にはそんな生き方もあるのか、とハッと目を覚まさせられるような思いでした。

幸い無事大学院に進学することができ、それから約6年間は公認会計士と大学院生という二足のわらじを履くことになりました。

「見えないこと、分からないこと」が見える、分かるようになる歓びに

入った大学院は徹底した少人数教育で、経済学研究科の同期で会計学専攻は一人。大先生が3人という状態でしたから、常に「いま何を研究していますか」という質問を前に針のむしろ状態。受け身で授業に出ながら、「論文ってどうやって書くんだろう?」と無為に時間を過ごしていました。それでも、少しずつものを調べたり書いているうちに、自分がいかに分かっていないかということに気づかされ始めました。

書くということは、無から有を生み出すことです。それは文章を生み出すという意味ではなく、まさに思考を生み出すといったほうがいいかもしれません。書いて考え、考えて書くということの繰り返しの中で、次第に研究の醍醐味に取りつかれるようになりました。

もちろん、調べたり読んだりすることはありますが、その知識を頭の中で関連づけて組み立て、真理に迫る作業のほうが苦しくもあり楽しくもあります。そして書いているうちに、いままで見えなかったことが見えてきたり、分か

らないということが分かってきたり。公認会計士試験の勉強で知っていると思い込んでいたことは、実は全く何も知らないに等しかったということが分かったこと自体が新鮮でした。

大学院修了時の国立大学への就職を機に、研究者として生きることを決めました。

専門職という仕事があって心からよかったと思う

今でも鮮明に思い出すのは、高校卒業時に担任の先生から贈られた言葉です。

「諸君は、高校を卒業すると普通の主婦になって、よほどの自覚を持たないと岩波新書の1冊も読まずに人生を過ごすかもしれない」

あの時、先生が我々に本当に伝えたかったことは、本を読めということではなく、卒業したらたまには日常生活からすっと離れて、非日常的な世界から自分の人生を鳥瞰してみなさいということだったのか、と気付かされたのは、ずっと後になってからのことでした。

「本当に役に立つものは、すぐには役に立たない」といいますが、研究者になって、大学の教師の役も兼ねるようになってから、あの時の先生のように、

何十年か先に気づきがあるようなことを学生に伝えたいと心がけていますが、いまだ道遠しです。

仕事には、ずっと恵まれてきました。朝日会計社の時代もそうでした（ですから今でも有限責任あずさ監査法人は大好きです）が、一度職場に入ってしまうと、差別を受けることもなく、かえって周囲が好意的に接してくれたおかげで、一度も職場でいやな思いをせずに過ごすことができました。

女性は資格を取って働いたほうがいいと、近頃でも大学のゼミの教え子たちに言うのは、そのためです。今振り返っても、この気の強い、理屈っぽい人間が、資格もなく生意気なことを言いまくっていたら、きっと、もうとっくの昔に仲間はずれにされていたことだろうと思います。

それが、この年まで大過なく職業人として過ごしてこられたのは、プロフェッショナル（専門職）という世界の賜物以外にないと思います。

最近、上場企業の社外監査役や社外取締役も兼ねるようになりましたが、企業風土も千差万別。「もし自分が男性で、この世界に最初から飛び込んでいたら…」と、時々空想を巡らしてみたりしますが、なかなかイメージが湧いてきません。女性であればなおさらで、おそらくグラスシーリングの厚い天井に阻まれて、思い切り頭を打って墜落しているのがおちだったと思います。しかし一方で、もし今の時代だったら、結構頑張れたのではないかと思えたりもします。

オーダーメイド人生こそ
女性ならではの強みでは

実家では町中の小さな商家ながらも母が今流のＣＥＯ（最高経営責任者）、父がＣＦＯ（財務担当役員）的な役割を担っていたことを、最近になって懐かしく思い出します。

いずれにしても、英才教育を受けたわけでも、まして知識人の家庭に育ったわけでもない自分のような人間が、なんとかこの世界でやってこられたのは、その時その時に与えられた仕事を精一杯こなしてきた結果に過ぎないと実感しています。

「捨てることこそより多くを得ること」

職業と家庭の両立をするもよし、どちらか一方だけにするもよし。ただしもし前者を目指すなら、一度に両手に抱き抱えずに、一方に軸足をおいて、片一方を趣味と割り切ってみるのも一案。

「選択と集中」とは、まさに働く女性にこそ当てはまるスローガン。働くか否かも含めて、たった一人のオーダーメイドの人生を送れるのが女性の特権だと考えると、何だか楽しくなってくるではありませんか。

【辻山ノート】

□ 結婚・子育て・いい旦那様の選び方

・旦那様は「自分のために家に専業主婦を待機させることは耐えられない」と言ってくれる奇特な〝お肉の大好きな草食系男子〟でした。

・姉さんや、婆さんやを総動員。

・人生には後回しにできないこともあると、子育て期間中は子供のことを最優先。

・「産むまでは悩み続ける、産めば悩みは終わる」と割り切る。

・子供を甘えたいだけ甘えさせて、思い切り抱きしめて、情緒の安定をはかる。

・子育て＝親が勉強する場。

小森 尚子

小森さんには学者としての観点から、日本の女性会計士が構築してきた役割について、欧米との比較による興味深い考察をいただきました。

こもり なおこ
英国シェフィールド大学会計学講師

Profile 95年 神戸大学大学院卒業／96年～04年 和歌山大学経済学部にて、助手、講師、助教授として勤める。／05年 英国シェフィールド大学(Sheffield University Management School) 博士号 (PhD) 取得／～08年 Manchester Business School、The Centre for the Analysis of Investment Risk (CAIR) にて研究員を務める／08年10月 Sheffield University Management School にて会計学講師 (lecturer in accounting)
教育と研究に従事する傍ら一児の母として育児に励む

日本女性は、欧米女性とは違うやり方で社会における会計士の地位を確立してきた。

一般的に海外では、日本は男性中心社会で、女性が社会で活躍するためには大変な困難が伴うと考えられています。その一方で、女性が家庭でしっかりと旦那さんの財布の紐を握っていると知り、日本を訪れた外国人がその固定観念とのギャップに非常に驚きます。公の場と家庭の場で、お金を管理する女性の地位がなぜこうも違うのでしょうか？　この日本社会のもつ特性が「女性と会計」を考察することで、解明するのではないだろうか、と考え、研究の焦点を、日本の女性会計士の意義と役割の考察においてきました。

以下は私がこの研究の中で直面してきた発見の一部です。その中で、これまで日本の女性会計士が構築されてきた社会的意義を少しでも伝えることが出来れば幸いです。

欧米に比べると女性の割合が少ないが「だから日本は遅れてる」と言えるか？

日本の女性会計士の数は２００６年に全会員数の１割を超えて以降、増加の

一途をたどっています（注・２０１０年11月現在14％）。ただ、日本の会計士業界に女性が増えてきたとはいえ、専門職の組織的構造的視点から見て、欧米に比べると、まだまだ圧倒的に男性優位の業界であることは、数字上では一目瞭然です。例えば、イギリスの６大勅許会計士協会[※1]では、女性会員数が３分の１を占め、ビッグ４のパートナーの数でも女性は25％を占めています。

では、日本の女性会計士は、欧米で広く考えられているように、日常生活の中でも男性優位の社会構造と常に戦っているのでしょうか。キャリア・アップの機会をうかがい、報酬の差額、昇進のスピードの差に意識を集中させて、仕事に従事しているのでしょうか？　うーん、ピンとこないな、と感じつつ、インタビューを開始しました。

女性会計士の方々の経験談はそれぞれ個性的で多様性に富んでいました。最終的に、私は当時の日本女性会計士の１割にあたる66人の方々とインタビューを重ねることとなりました。

大手監査法人、個人事務所という仕事形態だけではなく、時代背景、結婚経験、家族構成、などのバックグラウンドが、個々の女性会計士の考え、行動に大きく影響します。世間では、日本社会が画一的であるとか、日本企業にとってダイバーシティ・マネジメントが重要だ、などといわれていますが、日本の会計専門家の職業領域においてはそのような見方がいかに不適切であるかがよく分かります。

※１：６大勅許会計士協会／イギリス女王の勅許（Royal Chartered）を受けた英国の会計士６団体（ＩＣＡＥＷ、ＩＣＡＳ、ＩＣＡＩ、ＡＣＣＡ、ＣＩＭＡ、ＣＩＰＦＡ）を指す。

日本の女性会計士の社会的地位と役割を考察するためには、単純にアングロ・サクソンの研究枠組みを用いることが不適切であることが示されるのと同時に、日本の社会的・文化的・歴史的コンテクストの中で考えることの重要性が浮き彫りとなりました。

欧米では「男性支配」の特性が会計専門職の構造の中に埋め込まれてきました。例えば、イギリスでは会計士が「専門家」としてその社会的地位を確立したのは、19世紀後半から20世紀前半の間ですが、イギリスの会計「専門家」は他の会計職種との差別化を図るために、女性を排除することにより「男性に適した」職業として成立してきました。

そのような歴史的背景の中では、女性会計士は男性からの「独立」を目指すという共通目的を共有せざるを得ず、フェミニズム運動をはじめとする女性活動が、女性会計士の専門家としての地位と活動を支援するのに大きな役割を担ってきました。このような男女対立構造を歴史の中にもつ欧米からみれば、マイノリティーの日本の女性会計士は、会計専門家という職業が持つ特質の一つである、男性支配構造の「被害者」としてしか捉えられず、その状態は欧米のそれよりも数段「遅れている」と考えられがちです。

何より「いい仕事をする」が第一
日本女性の強さとしたたかさ

確かに数の上では　欧米の女性会計士はわが国に優るでしょう。しかし、実際日本の女性会計士の話を聞いてみると、彼女たちは組織に内在化された男性支配構造に単純に屈してはいません。否、彼女たちに共通していたのは、「男性からの独立」や「組織の上部階層の地位」を目指すという意識は希薄で、「形だけ」の独立を果たすことを目的としてきてはいなかったという点です。

むしろ、彼女たちは公認会計士の日常業務の中で、「よい」仕事をすることによって、自己実現することを果たしてきました。ある大手監査法人の女性パートナーはクライアントと接触する中で、母としての立場や経験を生かし、彼らが「厳しい」監査意見をも受け入れられるよう支援してきました。

また夫と会計事務所を共同経営している女性は、夫のビジネス・パートナーとして、夫の顧客がこぼす愚痴を聞いてやることを通じて、顧客のビジネスをよりよく理解し、彼らの信用を得、コンサルタントとして首尾よく夫と共同経営しています。

若手の女性会計士は仕事が厳しく、キャリアを続けるか迷いつつ産休をとったところ、逆に、会計士としての仕事によって子育てのタフさから開放される有難さを見出し、復帰後は育児から学んだ「人」との関わり方を日々の仕事の中で生かしているとのことでした。

これらに共通していることは、彼女たちは女性としての社会的地位やポジションに閉塞することなく、かつ、いたずらに男性からの独立意欲にエネル

ギーを浪費することなく女性としての多様な地位、役割、その経験を「上手く」活用することによって、社会的に不利な女性の立場を、公認会計士として仕事をする上での利点へと転換しているという点にあります。一般に女性会計士の監査判断は「厳しい」と考えられがちですが、彼女たちの自己実現の追求が、企業を長期的視点にたった経営展開へと方向付け、ひいては硬直しがちな日本社会と企業経営に「ゆさぶり」を与えてきました。

欧米の女性会計士が「男性からの独立」を追求することにより、女性の地位向上を目指してきたのに対し、日本人女性会計士は「監査の独立性」を内側から補強することによって、最終的に女性というマイノリティーの価値を高めてきたのです。

日本人であることの独自性、大切さを世界に発信することが今こそ重要

欧米では会計研究の分野の一つに、「ジェンダーと会計」という領域があります。これまでの研究から、私は、欧米一辺倒の「ジェンダーと会計」の議論に、日本女性会計士の経験と視点を採り入れることで新たな展開をもたらすことを目指してきました。

08年、その成果をまとめた私の論文が、Accounting, Auditing and

Accountability Journal から、会計学研究に重要な貢献をした研究者に贈られるMary Parker Follett 学会賞の High Commendation 賞を受賞しました。欧米の著名な学者の共同研究の受賞が並ぶ中で、日本人の単独研究が受賞するのは初めてで、ようやく日本女性の観点から海外へ向けて発信するメッセージを確立することができたのは大きな意義のあることだと考えています。

グローバル経済の共通言語でもある会計の領域では、なかでも特に支配的なアングロ・サクソンの影響を強く受ける傾向にあります。グローバル化の波を止めることができない状況の中、今後、日本独自の社会的、文化的コンテクストの中から、（男女を問わず）公認会計士として日本から発信できるアイデンティティを構築していくことの重要性とその必要性を強く感じずにはいられません。

ちょっとお茶の時間

その３～監査にマストの「出張」秘話アレコレ

公認会計士は新人時代から
「出張」がつきもの。
華やかな都会や憧れの地もあるが、
もちろん場所は選べない。
それでも「出張」は楽し、の体験談です。

●「鉄子」の快楽　**電車で行く国内出張**は鉄道オタク（鉄子）にとっては堪えられない。あるいは**地方の温泉めぐり**など。

（30代／監査法人マネジャー）

●和菓子の誘惑　お気に入りの店の住所を予め調べて近隣の和菓子屋に通っていた。**現地でしか買えないものがけっこう多い**ので、チェックしていた和菓子屋が近くにあると得した気分になります。（30代／監査法人マネジャー）

●テンション上がる東京　みんなで夜ご飯を食べに行くのですが、歩く量が半端ありません。**六本木から麻布十番、銀座、赤坂と、特に行き先も決めずふらふらとおいしいご飯を求めて１時間くらい彷徨います。**　いい店が見つかる時もその逆もあるけど楽しい。（20代／監査法人勤務）

●心あたたまる逸話　新潟の駅で小学生が冊子を配っている。女の子が近づいてきて「よかったら読んでください」と 20ページほどの冊子を渡してくれました。新潟と言えば雪、お米程度の知識しかなかったのですが、歴史あるお寺があったり、火祭りのようなお祭りがあったり、いろんなことを知りました。帰ってから礼状を出したところ、**１カ月後に担任の先生と冊子を書いた本人からお手紙を頂き、**嬉しかったです。

（20代／監査法人勤務）

楽しいことばかりではない。
行き先を選べないのが公認会計士。

●宿の恐怖　田舎のときは、**元ラブホテルがビジネスホテルに変わったような宿**しかなく辛かった。ホテルがなく、商用宿みたいなところや会社の寮に泊まったりも。男性は相部屋で…。

（40代／会計事務所経営）

●コーヒー責め　名古屋では行きの新幹線で１杯、会社の方との待ち合わせまでの時間つぶしに２杯目、会社に伺って３杯目、お昼ごはんとセットで４杯目、午後から会社で５杯目。どれも濃いコーヒーだったからか、**夕方から体調不良になり手羽先も食べずに寝込む**羽目に。

（20代／監査法人勤務）

●枕が変わる心配　それだと眠れないという男性会計士は**愛用枕をスーツケースに入れて持って行く**か、自前で宅配便で送っていたみたい。

（20代／監査法人勤務）

そして、歴史的事件に
巻き込まれることも。

● 13年前ロンドンに出張した時、**到着した翌日にダイアナ妃が事故死。**騒然としたロンドンで１週間過ごしました。帰りの飛行機は夜だったので、夕方までは美術館など見学しようと計画していたところ**ダイアナ妃のお葬式と重なり、全てクローズ。**当時、まだ10代だったウィリアム王子が今度結婚するのですから、月日の立つのは早いものです。（40代／監査法人パートナー）

第7章

長く続けてきた末に発見したこと

日本の公認会計士制度は平成20年（2008）で発足60年を迎えました。
この章では今から約30〜40年前、男性中心だった時代に公認会計士になり、
道を切り開いてきたパイオニア的なお二方にご登場いただきます。

西川 京子

西川さんは大手監査法人に所属し、香港でパートナーに就任。
経営に携わってきたことや、素敵な友人たちとの交流を綴っていただきました。

にしかわ きょうこ
公認会計士

Profile 69年 大学卒業／82年 中央会計事務所（中央青山監査法人、みすず監査法人に名称変更後、解散）入所／86年 公認会計士３次試験合格／90年 クーパース・アンド・ライブランド（C&L、現PwC）香港駐在／94年 クーパース・アンド・ライブランド香港、パートナー就任／01年 帰国、中央青山監査法人へ帰任。アジア・中国関係やヘルスケア（公会計部門）関連コンサルティングの仕事に従事／01年 中央青山監査法人のパートナー就任／07年 みすず監査法人退職後独立、西川公認会計士事務所開設、所長

現在は大学院での講師、公益財団法人他公的機関の監事・委員等、国際協力ボランティア活動等に従事

もう少し若く会計士になっていたら あと1カ国駐在したかったです。

ブラブラしていた20代を経て、30歳で結婚しましたが、その後大きな問題が起こり、33歳の時にカバン2つを抱えて家を出ました。その時に「これからどうしよう？」と相談した男友達が公認会計士の道を勧めてくれました。

私が2次試験に合格した82年当時は、合格者数が関西で40人程度（女性は3名）しかいなかったこと、商法改正により監査対象会社が急増したことから業界はかなりの売り手市場でしたが、いくつか訪問した監査法人はすべて断られました。年齢（当時35歳）と女性であることがネックですと言われた法人もありました。

ただ、当時の中央会計事務所所長が、「面白いんじゃない」と快く受け入れてくださり、入所が決まりました。断られ続け、働く場所がないかもしれないと不安がつのっていたので、就職先が決まり本当にうれしかったのを今でも覚えています。

最初は、仕事に就けたことに感謝し努力しましたが、安定してくると、変化を求める元来の性分が目を覚ましてきました。日系クライアントの増加への対応のため、中央会計事務所の提携先であるクーパース・アンド・ライブ

ランド（C＆L）香港事務所の初代駐在員から誘いがあったのは、これから先どうするかを考えていた頃でした。

「中年の流れ者」が香港返還まで立ち会えた

私は香港には何か別のビジネスチャンスもありそうという漠然とした期待を持っていたことから、深く考えず何か面白そうと駐在を希望しました。アメリカやイギリスは希望者も多かったのですが、当時アジアはあまり応募者がいなかったせいもあり、英語も上手くない女性でも駐在できたのかもしれません。当時中央会計事務所では、「アジアの駐在は、大阪事務所の中年の流れ者が行くところ」などと言われていましたが、私にとっては非常にラッキーなことでした。

現地では日系部門のマネージャーとして、主に新規クライアントの開拓のための営業と、獲得したクライアントのメンテナンスの仕事をしていました。

最初3年の契約で90年1月に赴任しましたので、97年7月1日に予定されていた英国から中国への香港返還は、残念ながら見られないだろうと思っていました。しかし、任期が何度も延長され結局11年に及んだため、歴史的瞬間に立ち会うことができました。

赴任当時、かなりの香港人が、返還後の不安からカナダやオーストラリアに移住、また、香港会社も本店所在地をバミューダ等[※1]に移すという状況でした。一方、日本からは香港の自由な投資環境と中国の潜在的大市場を狙って、金融機関、百貨店、商社、製造業等多くの企業が香港に進出するという日々変化する時代に、初めて異国の地で仕事をするのはとてもエキサイティングでした。

人種や業種、公私に関係なく魅力的な人との出会いこそ財産

駐在経験はまさに人生の転機であったと思います。仕事上、またプライベートでも、香港人、中国人、イギリス人、オーストラリア人ほか様々な国の人との交流があり、違った文化に触れるのは大きな喜びでした。現地で過ごした40代はもっとも面白い年代でした。

これまで生きてきて、私にとって一番大事なのは、いい人達との出会いだと思います。香港の駐在が決まった時に、海外経験豊かな2人の男友達（商社マンとエンジニア）からもらった餞別の言葉はずっと心に残っており、問題が起こった時の支えになりました。

「逃げるな！　逃げるともっともっと苦しくなる」

※1：バミューダ／タックス・ヘイヴンとして知られる北大西洋にある諸島。タックス・ヘイヴンとは、一定の課税が著しく軽減、免除される国や地域のことで、租税回避地を指す。

「思い切って懐に飛び込め！」

また、香港に赴任した時の日系担当香港人パートナーは、公認会計士としても、営業の方面でも卓越したパートナーでした。その分、品質にも業績にも厳しい人で、日系部門の業績には不満だったと思います。私ともう一人のマネージャーは、彼の前ではいつも緊張して、ピリピリしていました。赴任当初、あまり馬鹿にしたことをいうので、頭にきた私は、たどたどしい英語で彼にくってかかったことが2度ほどありました。必死に話そうとする私を彼は驚いたように見つめていました。

そんな彼が、3年ほど経ったパートナーズ会議で私のパートナーへの登用を強く推薦してくれたというのを他の人から聞いた時は、本当にうれしかったです。二人の餞別の言葉が少しは実行できていたのかもしれません。

パートナーになって、マネージャー時代と得られる情報の質と量が格段に違い、経営に携わることのおもしろさを知ることができました。広い個室、専属の秘書、専用のグリーティングカード等に最初は慣れなくて戸惑ったのを覚えています。パートナーの責任・業績評価は厳しいですが、同時に権限も大きく、他の部門のスタッフとのやり取りもよりスムーズに運んでいきました。日本の監査法人にも女性のパートナーがもっと増えればいいと思っています。男性、女性それぞれの特性が生かされ、シナジー効果を生み、より強い公認会計士業界になるのではないでしょうか。

香港でのもう一つの新しい発見は、仕事をする上での女友達のすばらしさでした。日本の事務所ではまだ女性会計士は少なかった頃です。

香港事務所の日系部門の仕事は、日系企業が香港に会社を設立し、監査を受け、税務申告をし、M&A等事業再編をしたり、時によっては撤退・清算をしたりする際のすべてに関わり、それぞれの部門（現在は独立性の関係で別組織になっている部門もあります）の担当者と共にアドバイスをします。

それで、仕事上いろんな部門の女性マネージャーと親しくなりました。みな親切で、困っている時には、労を厭わず協力して、大きな支えになりました。数年後それぞれがパートナーやディレクターになると、ますます結束が固くなり、仕事はもとより、遊びも楽しむ仲間になりました。

若手の人たちには公認会計士の世界を広げてほしい

文学部出の私にとって、簿記や会計など無縁で興味のない分野で、若い頃には公認会計士になるとは考えてもみませんでした。でも、海外駐在ほかいろんな経験ができたのは、公認会計士になれたお陰だと思います。また、公認会計士という仕事は責任が重いですが、女性にとって働きやすい仕事でもあると思います。私はアジアのいろんな国で、活躍している多くの女性会計

士にお会いしました。

香港でも中国でも、マネージャーぐらいになるとメイドさんを雇っている人が多いので、少なくとも家事や育児の負担が少ないのも影響しているかもしれません。

これからは日本でも女性の働く割合が多くなると思いますので、働きやすい社会環境が整備されることが望まれますね。

公認会計士の仕事としては、今後ますます活躍できる分野が広がっていくと思います。弱点を克服するのに多くの時間を費やすより自分の長所、やりたい事を見つけ、それを伸ばす方がずっと楽しいし、効果的なのではないでしょうか。

これからより多くの女性がこの業界に入ってこられ、自分の得意分野を見つけて、活躍されることを願っております。

友永 道子

友永さんは女性会計士として初の公認会計士協会の常務理事・副会長に就任され、協会活動を支えてこられました。その15年を振り返っていただきます。

ともなが みちこ
公認会計士

Profile 70年 大学卒業／75年 公認会計士3次試験合格／87年 パートナー昇格／92年 シニアパートナー昇格／07年 日本公認会計士協会副会長就任／10年 新日本有限責任監査法人退職／10年 日本公認会計士協会副会長退任

この間、金融庁企業会計審議会委員、同金融機能強化審査会委員などを歴任

ものしりコラム ❻

日本公認会計士協会とは

日本公認会計士協会(協会)は、日本における、公認会計士で組織する唯一の自主規制機関です。会員(会計士)が規律を守ったり、自らの能力を高めるように、指導及び監督するための組織で、昭和41年(1966)に発足しました。

協会は、本部での活動のほか、全国に支部として13の地域会を置き、それぞれの地域に密着した活動を行っています。本部の役員は、会長、副会長、専務理事、常務理事が執行機能を担い、理事が主として監視機能を担っています。

協会の事業は、会則第3条において定められています。

1. 公認会計士の遵守しなければならない職業倫理に関する規範を定め、その保持昂揚を図ること
2. 公認会計士業務に関する講習会又は研究会を開催する等会員の資質の向上を図る諸施策を実施すること
3. 監査及び会計に関する研究調査を行うとともに、監査基準及び会計基準の運用普及、監査制度及び企業会計その他の会計制度の確立を図ること
4. 公認会計士制度及び公認会計士の業務(租税に関するもの含む。)について調査研究を行い、必要に応じ、官公署に建議し、又はその諮問に応ずること
5. 会員の監査業務の適正な運用に資する諸施策を講ずること
   ・自主規制団体としての施策　・監査IT支援制度の創設
6. 公認会計士の業務に関し、会員の相談に応じ、資料を提供する等会員に対し必要な援助を行うこと
7. 会員の業務に関する紛議につき、調停を行なうこと
8. 公認会計士試験に合格した者の指導教育に関し必要な施策を講ずること
   ・業務補助等　・実務補習
9. 公認会計士、会計士補及び外国公認会計士の登録に関する事務を行なうこと
10. その他事業目的を達成するための事業を行うこと

私と会計士業界と、15年間の協会活動を振り返る。

私は、平成元年（１９８９）前後から協会本部での委員会活動に参加していましたが、平成７年（１９９５）に協会本部の役員である理事に選出され、以後、平成10年（１９９８）から３期にわたって常務理事、平成19年（２００７）から副会長として協会の仕事に携わってきました。

常務理事は、担当の委員会での調査研究の成果である報告書等の作成に加えて、監督官庁である金融庁や、財務諸表作成者である経団連、市場関係者等と、公式・非公式の会議で様々な問題に関する調整を行っていく仕事があります。

平成10年（１９９８）監査基準委員会担当常務理事に就任

監査基準委員会は、監査基準の実務に適用するにあたっての具体的な実務指針を作成する委員会です。金融庁の企業会計審議会で平成11年（１９９９）末から検討が開始され、平成14年（２００２）に公表された監査基準の全面改訂においては、起草のコアメンバーとして、学者の先生方と真剣で妥協のない議論を闘わせ、監査基準の骨格や意見書の文案を作成する作業に参加できました。コア会議の前には、協会の監査基準委員会で徹底した検討を行い、

国際監査基準や実務に配慮した意見を述べるように努めました。監査について理論的な面での勉強が贅沢な環境の中でできたことが後々の財産となりました。

平成15年（２００３）公認会計士法の改正

２００２年に米国ではエンロンの巨大粉飾事件が、国内においてもいくつかの会計不祥事[※1]が発生し、公認会計士監査への信頼性が大きく揺らぐ事態となった結果、平成15年（２００３）に公認会計士法の改正がなされました。

協会は、以前から、自主規制として継続的専門研修制度や監査責任者の継続関与期間の制限（ローテーション制度）、監査事務所の監査の品質管理の状況について協会が定期的に点検する制度としての品質管理レビュー[※2]などを実施していました。これらは、自主規制では不十分なところを補完する目的で、罰則を伴った公認会計士法の規定に取りこまれ、法定化されることになりました。

平成16年（２００４）品質管理担当常務理事に就任

品質管理レビューが法律上の制度とされ、金融庁の中に設置された公認会計士・監査審査会のモニタリングを受けることになりましたが、制度の切り替え時の平成16年（２００４）に、品質管理担当常務理事となりました。当

※1：会計不祥事／平成14年（２００２）にはフットワークエクスプレス等の粉飾事件が発覚している。

※2：品質管理レビュー／いわば「監査の監査」であり、協会の自主規制として実施するもの。

初、審査会も協会も初めてのことで、モニタリングの在り方について双方の考え方に隔たりがあり、共通認識に至るまで、緊張感のある対応が必要でした。その過程で、自主規制の在り方、監査基準や実務指針の解釈、品質管理レビューでなすべきことについて激論が闘わされました。平成17年（２００５）に出された審査会の提言を受けて、協会の対応を公表するに当っては、改善すべき問題点は前向きに改善しながら、主張すべきは主張していくスタンスで臨みました。

平成18年（２００６）には審査会の４大法人への検査結果に基づく業務改善指示が出され、その後、監査法人の品質管理体制や協会の行う品質管理レビューも、痛みを伴いながらも曖昧さを払拭し、監査の品質は相当高くなったと評価されるようになりました。

平成19年（２００７）には、監査事務所に改善のための自助努力を促し、かつそれが外部から見えるものとするために、上場会社を監査している監査事務所名簿を公表し、品質管理が一定水準にない事務所については問題事項を名簿上に開示することや名簿からの登録抹消の措置を行う制度を創設しました。担当常務理事として運用に問題が生じないよう、細心の注意を払って制度設計に当たりました。

平成19年（2007）副会長に就任

副会長は、協会全体の基本方針や重点的施策の決定に関与し、常務理事のときよりも広い範囲の業務を担当して、各常務理事に重要な問題について助言を行い、対外折衝を行うのが主たる仕事となっています。担当範囲が、法規や制度、倫理といったところにまで広がり、初めて担当するテーマが新鮮で、一からの勉強を楽しみながら行うことが出来ました。近年問題とされる企業のコーポレート・ガバナンス問題のうち、監査人の選任・監査報酬決定に関する「インセンティブのねじれ」[※3]に関しては、日本監査役協会の有識者懇談会など、協会外の会議に参加し、協会としての意見を述べる機会が増え、責任の重さを常に感じておりました。

各監査法人が、女性を当たり前に理事に推す時代になった

このように協会活動を継続した結果、各監査法人が揃って女性の理事候補を出すようになりました。これは、私の15年間で最高の成果と考えています。また、活動の中で多くの会計士仲間や外部有識者との出会いがあり、ともに議論し、切磋琢磨してきたことが継続の大きな糧になっています。

ステップアップしていくには、それ以前の仕事に対する評価に加えて運も

※3：インセンティブのねじれ／会計監査をされる側の経営者が、監査する側を選んだり、監査報酬額を決定したりする権限をもっているという現行制度の問題点を指す。現行の会社法では、会計監査人の選任議案および監査報酬の決定については監査役等に同意権が与えられているが、決定するのはあくまでも取締役となっている。

必要です。まず興味を持つこと、誠実に仕事をこなして周囲を納得させる結果を出すとともに自分も達成感を得ること。その積み上げの過程の思わぬところに飛躍の芽が潜んでいるので、手抜きをせずにやることです。

そのうちにチャンスは来ますよ、必ず。

【友永ノート】

□ 動機：公認会計士の資格取得と就職

・東大女子は3進路（大学院進学、公務員、弁護士・教員等専門職）から選択。

・仕事に生き甲斐、女も手に職、そのための教育が大切との信念。

・一生の職業を持つことができる。

・国家資格で、経済を動かす企業と接点のある魅力。

□ 重要な岐路での判断に失敗しないコツ

・絶対に即断しない、夜は情緒的ゆえ判断を先送り。

・何日も考えて結論にブレがないことを確かめて、朝の判断に従う。

□ 気持ちの維持のコツ

・ビーンと気持ちも張りつめてばかりでなく、適度の緩みが必要。

・落ち込んだら「明日でいいことは明日にしよう」と仕事を中断、気分転換。

・本を読む、音楽を聴く、芝居を見る、旅行をする、ゴルフをする。充填時間の後には「よし、やるぞ」という気持ちが自然と起こる。

ちょっとお茶の時間

その４～ドラマ「監査法人」を本職が観たら!?

塚本高史、松下奈緒のコンビで2008年に放映され、公認会計士が主人公ということで話題を呼んだＮＨＫドラマ「監査法人」。その「あるある」「ありえない」のコメント集。

あるある編

●粉飾発見、私はありましたね。他に私が直接担当してなくても先日も私が元いた監査法人のクライアントでもいくつか聞きました。ドラマと同じように**粉飾が起こりやすい業種として確かに建設業は多い。**他にＩＴ（システム）業も。内容は、①完成しているといって売上の前倒し計上　②赤字になりそうな工事の原価を他の工事の損益に付け替え（工事番号つけかえ）　③循環売上。仕入先と共謀して、不必要にモノの動きがなく（数字だけの）実体のない売上・仕入を行う→売上の過大計上です。

（40代／会計事務所経営）

ありえない編

●監査の現場では**人が死ぬことはまずありませんし、社長に土下座されることもありませんし、会社に行って平身低頭で迎えていただけるわけでもありませんし**…などなど、あの作品について言いたいことはたくさんありますが、私たちの業界に興味をもっていただけたことは大変ありがたく思います。（30代／監査法人マネジャー）

●**行く先々で不正が発見されるなんてありえない。**20年会計士やってるが、従業員による使い込みに何回か遭遇したことがあるだけ。**若い会計士が、現場で即「不適正」なんていうこともありえない。**「適正」以外の意見を出すときは、法人本部で死ぬほど議論しているはず。相手先に反面調査に実際に出向くこともありません。

（40代／監査法人パートナー）

●ドラマでは軍隊のようにみんな同じ黒いキャリーを持っていましたが、**実際は男の人はほとんどキャリーを持っていません。**女性でもキャリーを持っている人は少ない気がします。

（20代／監査法人勤務）

●会社と戦っているイメージが強いですが、**敵対していては会社の方が質問に答えてくれない、資料を出してくれない等仕事がスムーズにいきません。**世間話もしながら、和やかに質問しています。もちろん会社の駄目なところは指摘しますが…。（20代／監査法人勤務）

●社長や部長、**会社のそうそうたるメンバーによる監査のお出迎えはあまり聞いたことはありません。**そんな会社もあったりするのでしょうか？

（20代／監査法人勤務）

おわりに

この度、日本公認会計士協会 近畿会 女性会計士委員会の企画のもと、公認会計士としてさまざまな分野で活躍している女性たちに執筆をしていただき、キャリアの軌跡とその中での苦悩、感動、そして働く女性たちへのメッセージが綴られた1冊が完成いたしました。公認会計士の仕事内容は、日常生活とあまり関係がないため一般には理解されることが少ないのが現状です。この本を通して、公認会計士の仕事とその中での女性が活躍する姿に触れていただき、少しでもたくさんの方に公認会計士という職業を知っていただくこと、またみなさんのキャリアビジョン構築の一助になることを願っています。

女性会計士委員会　委員長　宮口亜希

公認会計士の仕事というのは、比較的男女の差別がない、女性だからといって、昇進等の面で不利な扱いを受けることは少ないといわれる業界です。ただしそれはあくまでも、「男性と肩を並べて仕事をすれば」という暗黙の前提条件つき。現実には、結婚、出産、育児という人生の様々なステージで、どうしても男性よりも多く負担を背負わなければいけない女性にとっては、まるで、鉛の足かせをつけた状態で同じスタートラインに立っているようなものなのかもしれません。

「この先、このまま、仕事を続けられるのか。結婚もしたい、子どもも産みたい、仕事だって頑張りたい、でも両立できるのか」

難関といわれる国家試験に挑戦して、何年もかかってようやく合格して、就職できない、就職しても続けられない…など、何かをあきらめてしまわなければならないとすれば、本人にとってはもちろんですが、公認会計士業界にとっても、日本社会にとっても、大きな損失です。そんな悩み多き若い女性会計士さんたちに、あるいは公認会計士を目指す女性に、もちろん部下の女性や配偶者をサポートしてやろうという男性諸氏にも、この本が何かのヒントになれば、これほど嬉しいことはありません。

公認会計士という看板と、難関試験に合格した能力と、一度きりの人生をめいっぱい輝かせてやろうという情熱があれば、怖いものなんかないのです。

最後に、ご多用にもかかわらず、快く執筆を引き受けてくださった女性会計士の先生方には、深く感謝申し上げます。また、頼りないうえに働きの悪い前委員長を助け、企画から執筆者選び、編集、打ち合わせなど盤石の態勢で取り仕切ってくれた種田ゆみこさんはじめ、女性会計士委員会の皆さん、お疲れ様でした、ありがとう。

女性会計士委員会前委員長　栗原貴子

編集後記

「とにかくキラキラしたカッコいい女性に（タダで）話を聞きにいこう！」という、非常に関西人らしい動機からスタートした当出版プロジェクトでしたが、おかげをもちましてこの度、やっと1冊の本にまとめることができました。

プロジェクトのスタート時は、多くのメンバーがアラフォー世代でした。公認会計士を受験した当時、「初任給は高いし、資格は手に入るし、休みが多くて海外旅行にしょっちゅう行けるらしい！」…といった（不純な）動機で合格率数％の時代に公認会計士試験に飛び込んだかつての若手女性会計士も、そろそろパートナーやマネージャー世代に差しかかっています。もちろん、親身になってくれる先輩が全くいなかったわけではありませんが、「こんなしんどいのはイヤ、結婚して専業主婦になりたい」と退職する女友達を祝福したり、子育て中で働けない時期、昇進していく男性同期を横目に見たりと、悩みながらも何割かの女性は辞めずにキャリアを継続してきたわけです。

今度は、今まで自分たちが悩んでいたこと、こうやればよかったと思うことなど、後輩となる方々の参考になる情報を提供したいという思いで、構想から約1年、あるときは焼鳥屋、あるときはイタリアンレストラン、あると

きは会議室で打ち合わせを続けてきました。

「香港でパートナーをされている重富さんに直接お話を聞こう！」という企画が持ち上がり、編集会議が急遽、香港のペニンシュラホテルで開催されたこともありました。

しかし、なにしろ、会計は（たぶん）プロでも、本の編集はほぼ素人。プロジェクトスタートから何回も暗礁に乗り上げそうになりました。途中から、合格後数年の若手会計士（の卵）の皆さんの忌憚なきご意見や、グラフィックデザイナーの疋田彩子さん、イラストレーターのハンジリョオさん、編集集団１４０Ｂの中島社長のお力添えを得てやっとここまで来たわけです。

原稿を執筆していただいた方々は、第４章の重富由香さんをはじめ、第一線でバリバリと働き輝いておられる方ばかりです。

香港もそうですが海外は日本をはるかに上回る格差・競争社会だし、独立されている方はもちろん、今の立場がずっと続く保証などない中ではありますが、どなたもしなやかに働き戦略的にキャリアを構築されています。これを読んだ読者の方の中には、すばらしいと思いながらも、「私にはとてもムリ…」と思われた方もいるかもしれません。

しかし編者の場合、公認会計士として地道に働き続けた結果、会いたい人には時間さえあれば世界のどこでも会いにいけるようになりました。また公認会計士という共通項により、所属する組織や世代を超えた様々な方にお話を聞くという、大変有意義な経験をさせていただくこともできました。なんだか、昨日の自分より一歩前に進めそうな気がしています。

願わくば、この書物が読者のみなさまのキャリア構築のため少しでも役立ちますよう。編集者一同、心から願っております。

最後に、当書籍の出版にあたりお世話になりました皆さまに心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

じょせいかいけいしにじゅうにん　じんせい　ちゅうかんけっさんしょ
女性会計士20人　人生の中間決算書

2011年2月25日　第1刷発行

編者　日本公認会計士協会近畿会　女性会計士委員会
発行人　小川泰彦
発行所　日本公認会計士協会近畿会
〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-4-11 クラボウアネックスビル2F
電話：06-6271-0400　FAX：06-6271-0415
https://www.jicpa-knk.ne.jp
kinkikai@jicpa-knk.ne.jp
発売所　株式会社 清文社
〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北2-6 大和南森町ビル
電話：06-6135-4050　FAX：06-6135-4059
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-6-6 MIFビル
電話：03-6273-7946　FAX：03-3518-0299
http://www.skattsei.co.jp

女性会計士委員会では主に以下の活動を行っております。
1．異業種女性団体との交流に関する事項
2．働く女性問題の研究に関する事項
3．外国における女性会計士の実態の調査研究に関する事項

編集メンバー
会長　小川泰彦
担当副会長　高濱 滋
委員長　宮口亜希・栗原貴子（前委員長）
副委員長　堤あづさ・岡本善英
委員　伊加井真弓・玉置寿子・北山久恵・林紀美代・種田ゆみこ・俣野朋子・南里美・吉川和美・谷村尚子・池田緑・播磨宏美・野瀬裕子
サポーター　清水敬輔
監修　日本公認会計士協会
編集協力　株式会社140B
装幀　疋田彩子（Style Inc.）
イラスト　ハンジリョオ
印刷・製本　図書印刷株式会社

©The Japanese Institute of Certified Public Accountants KINKI Chapter 2011, Printed in Japan
ISBN978-4-433-48100-1

乱丁・落丁本はご面倒ですが、発行所負担にてお取り替えいたします。
この本についてのお問い合わせは日本公認会計士協会近畿会あてにお願いいたします。
本書の無断複写複製（コピー）は著作権法上の例外を除き禁じられています。
定価はカバーに表示してあります。

『女性会計士２０人　人生の中間決算書』（下）
http://p.booklog.jp/book/73245

著者：kaikeishi

著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/kaikeishi/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/73245

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/73245

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）

運営会社：株式会社ブクログ